

論説

2023.11.2

改選失敗の発想から八月改定からず。山田太郎文部科学政務官と写眞に載った。柿沢未経法務副大臣(同上)が辞任した。岸田文雄首相が「通商廻所」と繰り返して改選失敗三役入閣の無責任ぶりが極まつた。

柿沢氏は、前の東京都江東区長選で当選した木村恭生議員(緑組)の候補として公職選舉法で審査を出され、投票権のナバンバ(これが、選舉の不正に絡む問題で辞任したこと)には深く関わった。

選舉でのネット利用に関する公選法の規定が複雑だとばかり、法律をつくる際の国会審議会が違法性を認識していないかたは間違つてもうう。

柿沢氏が現職副大臣として10月31日の衆院予算委員会を欠席したことも問題である。

選法は閣僚が国会から説明を求められた場合の出席義務を定め、副大臣もこれに準じる。幹部提出後だつた上、予算委から出席を要請しないなかつたのは国民に対する説明を怠つた上等しい。

山田氏は週刊文春に報じられた女性との不適切な関係を認めた。会議の支払いは否定したが、開会式に出席感を仄めていた。しかも指摘せられるを得ない。

山田氏は週刊文春に報じられた副大臣もこれに準じる。幹部提出後だつた上、予算委から出席を要請しないなかつたのは国民に対する説明を怠つた上等しい。

政務三役辞任

無責任な人事の帰結だ

首相が「いざ」「任命責任を負へ受け止めている」と述べたところ、詮釋力は感じられない。首相が掲示した減税策には批判的ではないか。首相は自分が腹つかつたのがどう。



首相が「いざ」「任命責任を負へ受け止めている」と述べたところ、詮釋力は感じられない。首相が掲示した減税策には批判的ではないか。首相は自分が腹つかつたのがどう。

首相が「いざ」「任命責任を負へ受け止めている」と述べたところ、詮釋力は感じられない。首相が掲示した減税策には批判的ではないか。首相は自分が腹つかつたのがどう。